

「県道太田桐生線バイパス」の整備促進について（継続）

北関東自動車道は、平成23年3月19日の全面開通以来、放射状に広がる関東地方の高速自動車道同士を結節させるという役割を十分に果たし、地域経済の発展、観光ルートの形成、空港利用の促進、港湾へのアクセス向上による物流効率の上昇など、様々な効果をもたらしてくれているところであります。

群馬県においては、桐生市広沢町の松原橋交差点付近の国道50号を起点として、太田強戸スマートICへ直結するアクセス道整備が、群馬県の社会資本整備計画「はばたけ群馬・県土整備プラン」に盛り込まれ、また、桐生市においては、平成30年3月改訂の「桐生市新生総合計画」に「太田スマートICへアクセスする道路の整備促進を図る」の一文が盛り込まれたところであります。

つきましては、桐生市民の利便性の更なる向上、そして太田市との都市間連携の強化につながる幹線道路「県道太田桐生線バイパス」の整備促進、早期実現について特段のご配慮をいただきたく、強く要望いたします。

桐生市からの回答

北関東自動車道を利用した首都圏や沿線地域との広域的な連携の強化は、桐生市の経済活動や地域産業の振興、市民生活の利便性の向上、観光振興を推進するためにも不可欠であると認識しております。

「はばたけ群馬・県土整備プラン2018-2027」において、県道太田桐生線バイパスが今後10年間で完成を目指す路線として位置づけられ、平成30年7月には、太田強戸スマートインターチェンジの供用が開始されました。

高速道路を活用した広域的な地域間連携を強化し、本市の産業・経済の活性化や観光の振興、人口減少対策につなげるため、北関東自動車道太田強戸スマートインターチェンジへのアクセス道路となる県道太田桐生線バイパス整備につきましては、県知事が交代し、見直しが検討されているようですが、県をはじめとする関係機関と連携し、一日も早い開通を目指してまいります。

[回答担当] 都市整備部都市計画課計画係